

カテゴリ: サステナビリティ

2025年2月6日

東北エリア空港初、仙台空港内の作業車両で バイオディーゼル燃料「B100燃料」の本格導入を開始

日本航空株式会社(本社:東京都品川区、以下「JAL」)は、CO2排出量削減への取り組みの一環として豊田通商株式会社(愛知県名古屋市の)が運営を担う仙台空港配備の空港内作業車両であるトーイングトラクター(*1)にバイオディーゼル燃料濃度100%の「B100燃料」を、2025年2月4日より使用開始します

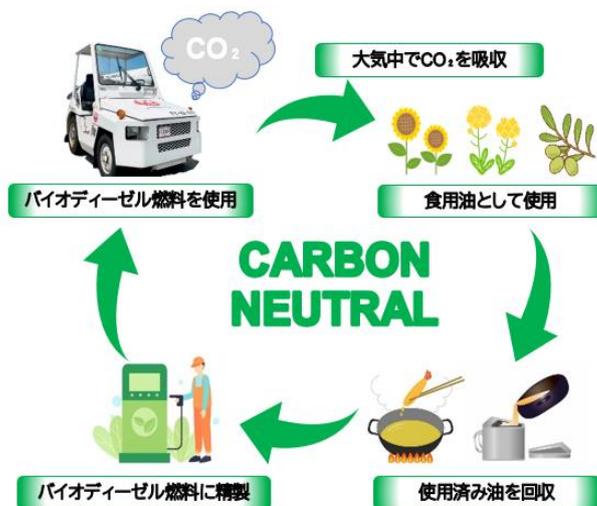
(*1)空港制限区域内にて航空貨物やお客さまの手荷物の運送用コンテナを牽引する車両

「バイオディーゼル燃料」は植物由来の廃食用油から精製しており、原料の植物が成長過程でCO2を吸収していることから、「カーボンニュートラル」の概念でCO2排出量を実質ゼロにすることができ、軽油と比べて1ℓ当たり2.62kgのCO2排出量削減の効果が見込めます。今回の仙台空港への導入効果としては、年間当たり約14tのCO2削減となります。

実施にあたり、豊田通商がバイオ燃料供給体制を構築し、有限会社千田清掃(宮城県大崎市)が「B100燃料」の製造を行い、株式会社パシフィック(宮城県名取市)がJALへの供給を担当します。



<トーイングトラクター>



<循環イメージ>

JALはこの循環型エネルギーの利用を通じて地域や社会と連携、協働して「CO2排出実質ゼロ」実現のために、持続可能なエネルギー利用によるCO2排出削減に取り組んでまいります。

【運用開始日】 2025年2月4日(火)開始

【対象空港】 仙台空港

【対象車両】 仙台空港配備 JALトーイングトラクター 3台

【実施内容】 バイオディーゼル燃料濃度100%の「B100燃料」をトーイングトラクターに使用